巻頭言

「現場で経済事業を実践し生産振興を牽引する組織」を目指して

～2030年ビジョン実現に向けた最重点施策の着実な展開～

本県の農業を取り巻く環境は大きく変化しており、生産面では、農家の高齢化や後継者不足にともなう離農を背景に耕地面積の減少が進むなか、度重なる自然災害の発生、鳥獣被害の頻発化など生産意欲の低下による生産基盤の弱体化が進行しています。

また、中東情勢が緊迫化し、燃料や農業資材の調達が制限されていることで、今後の営農継続が懸念されています。

さらには、農家の世代交代や販売チャネルの多岐化など系統離れが進行し、系統共販の落ち込みが顕在化しています。

消費面では、米価の高止まりが続くなか、消費者の買い控えによる需要の低下を招いていることにくわえ、節約志向の高まりや食の簡便化により、生鮮食品においても消費の減退が進行しています。

流通面では、物流規制の強化に対応した効率的なパレット輸送拡大による流通コストの低減が求められています。

政策面では、令和８年４月から「食料システム法」が本格施行され、生産・流通コストを反映した価格形成の実現に向けた取り組みを深化させる必要があります。

こうした情勢を踏まえ、全農青森県本部は、「2030年のあるべき姿」である

「現場で経済事業を実践し生産振興を牽引する組織」

の具現化に向け、令和８年度も引き続き、次の３つの最重点施策を実践してまいります。

○組織力の発揮による生産振興の強化および農家経営の安定化
○県産農畜産物の販売力強化および系統共販の拡大
○購買事業の競争力強化および系統利用率の向上

今後も「2030年のあるべき姿」を念頭におき、事業環境の変化に柔軟に対応し、組合員の営農継続と系統経済事業の維持・拡大をめざします。

全農青森県本部

絆 6 KIZUNA 目次 CONTENTS

巻頭言 …… 1
フラッシュ …… 2
Moving Forwad …… 4
インフォメーション …… 5
あおもり通信 …… 12
組織農政通信 …… 13
経営の窓口 …… 14
ＪＡ相馬村ＮＥＷＳ …… 15
輝き・部会のチカラ …… 16
新風 …… 17

表紙の写真：新・農のある風景 ～其の123～ 田植えで大活躍女性オペレーター（ＪＡ相馬村）

県内JAのニュースを紹介します

フラッシュ

ＪＡ青森

令和８年度放牧場開牧「獣魂祭」（５／14）

今別町町営山崎放牧場で令和８年度の放牧場開牧と「獣魂祭」が行われた。

畜産農家から集められた29頭の牛は、健康状態の確認ののち放牧場へと放牧された。獣魂祭は、家畜の霊を供養して命の恵みに感謝するため、毎年行われているもので、関係者30人ほどが参加し、事故なく安全に放牧されることを祈願した。

ＪＡつがるにしきた

15年連続目標達成　共済事業推進大会で結束強化（５／１）

当ＪＡは、サンルート五所川原で「令和８年度ＪＡつがるにしきた共済事業推進大会」を開催し、組合員・利用者に万全な保障を提供するため、決意を新たにした。

山中満春組合長は「全共連青森県本部の全面的な支援と、ＬＡ・スマイルサポーターによる、組合員・利用者に寄り添った推進活動、並びに一般職員からの積極的な情報提供により、15年連続推進総合目標を達成することができた。さらに、農業保障優績表彰の部で全国表彰されるなど、大変すばらしい結果」と成果を称えた。

ＪＡごしょつがる

親子で楽しむ農業体験　野菜づくりからスタート（５／９）

当ＪＡは、親子向け体験企画「農業まるごと体験スクール」を開校した。この企画は、年間を通じた体験型スクールとして全７回開催する。

第１回目の講師を務めた渋谷種苗店の澁谷耕平さんは、苗の植え方や水やりのポイントなどを説明。親子で協力しながら土を入れ、丁寧に苗を植え付けた。参加した家族は「親子で楽しめた。自分で植えた野菜が育つのが楽しみ」と笑顔で話した。

ＪＡつがる弘前

キューピー商品を使用した「ＪＡつがる弘前リンゴ」アレンジレシピ企画が始動（５／11）

当ＪＡでは、キューピー㈱の商品と「ＪＡつがる弘前リンゴ」を使用したアレンジレシピ企画が始動した。共にレシピを考案するのは、柴田学園大学短期大学部生活科１年生28人。

当ＪＡ管内で生産された「ふじ」「王林」「シナノゴールド」から１品種と、キューピーのマヨネーズやドレッシング、パスタソースなど12商品から１商品を使用してレシピを完成させる。完成したレシピは、コープデリ店舗での消費宣伝活動やポップ広告などを通じて消費者に紹介する予定。

ＪＡ相馬村

リンゴの巡回講座　開催！！（５／14）

当ＪＡは、管内12ヶ所でリンゴの巡回講座を開催した。リンゴの生育状況や今後の作業計画について、農業振興課の職員から、摘果や病害虫防除を適期に行うことの重要性が説明された。６月も巡回講座を開催し、生産情報を共有しながら高品質安定生産を目指す。

ＪＡ津軽みらい

平賀地区育苗コンクールを開催（５／14）

津軽みらい農協平賀水稲生産組合連絡協議会主催で、平賀地区育苗コンクールを開催した。健康で丈夫に育った水稲苗の育成推進を目的に開催され、「苗揃い・病害虫の発生・苗の硬さ・葉色・葉先枯れ・雑草の発生」を審査する育苗ハウス審査と、「苗長・第一葉高・葉齢」を審査する分解審査が行なわれた。

今年は出芽時期の高温と育苗期間中の強風により温度管理が難しい年だったが、そのような条件下でも当管内生産組合内の苗は順調に生育されており、今後始まる田植えに向けて生産者は意欲を見せていた。

ＪＡ十和田おいらせ

ホルスタインジュニアショウで グランドチャンピオン（４／28）

七戸町の県家畜市場で開催された「令和８年度青森県ホルスタインジュニアショウ」にＪＡ十和田おいらせの斗米伸也さんが出品した牛「ＳＴＦベテイクラーク　サイド　キツクエンジェル」が第４類（20カ月以上28カ月未満）の部でチャンピオン賞を受賞し、各種のチャンピオン賞がそろった最高決定戦においてもグランドチャンピオン賞に輝いた。

斗米さんは「次回の共進会に繋がるように今以上の努力を継続していきたい」と次なる大会への挑戦を意気込んでいた。

水稲現地講習会開催（４／ 22～24）

当ＪＡ営農経済部は、管内13ヶ所で水稲現地講習会を開催した。このうち、五戸営農経済センター（東部）で行った講習会には15人が参加した。

県三八農林水産事務所農業普及振興室の太田富広技師が講師を務め、育苗から移植までの管理方法、苗立枯病やばか苗病の病害対策等について説明した。

講師は「苗づくりは苗長14㎝、3.5葉苗でがっちりした苗にすることが目標です。かん水は苗箱の乾燥状態に応じて判断し、温度が上昇する前の朝方に行うように」と呼びかけた。

ＪＡゆうき青森

ニンニク講習会を開催（４／30）

ＪＡゆうき青森野菜振興会にんにく部会は、七戸町と東北町で収穫前の栽培講習会を開催した。部会員約30人が参加し、今後の栽培管理や病害虫防除の手順を確認した。

当ＪＡ管内では３月中旬ごろに消雪し、りん片分化期が４月16日から19日に確認された。平均気温が15度を超えると、さび病や春腐病が発生しやすくなるほか、ウイルスを媒介するアブラムシの飛来が始まっていることから、病害虫防除の徹底を呼び掛けた。

ＪＡおいらせ

春のクリーン作戦（４／14、17）

青森県農業協同組合労働組合おいらせ分会は地域貢献活動の一環として、ＪＡ施設周辺のゴミ拾いをする「クリーン作戦」を本支店で実施した。

当日は同分会以外に当ＪＡの部課長も加わり、本店約60人、六戸支店約30人が駐車場や倉庫周辺のゴミ拾いを実施。同分会の浪岡健治委員長は「皆さんの協力により実施できたことに感謝している。地域の皆さんには農協を利用してもらう際、気持ちよく迎えられるように今後も続けていきたい」と話した。

ＪＡ八戸

Moving Forward

各連合会の取組みを紹介します

JA全農あおもりの取組みについて

2030年のあるべき姿である「現場で経済事業を実践し生産振興を牽引する組織」の実現に向け、営農・販売・購買事業に係る三つの最重点施策を推進しています。

- ○組織力発揮による生産振興の強化および農家経営の安定化
- ○県産農畜産物の販売力強化および系統共販の拡大
- ○購買事業の競争力強化および系統利用率の向上

取組み事例①

販売事業では、りんごの輸出維持・拡大に向けて、主力の台湾を中心に実需者ニーズに対応した企画販売への取り組みや、消費宣伝活動の実施による青森県産りんごの売り場構築に取り組んでいます。

台湾での消費宣伝会の様子

取組み事例②

生産振興分野においてはドローン等を活用した高濃度少量散布の実証および効果の検証を行い、高齢化や担い手不足に伴う農作業の補完的な役割として農薬等散布請負事業に取り組んでいます。

ドローンでの農薬等散布の様子

JA全農あおもり

2026年度計画承認「地域をさらに盛り上げる」

県ＪＡ女性組織協議会は４月24日、県農協会館で第72回通常総会を開き、今年度の活動計画など全３議案を承認した。ＪＡ全国女性組織協議会の３カ年計画において実践２年目となる今期、重点テーマに基づいた組織の活性化を加速させる。

総会には県内ＪＡの女性部員ら約110人が参加した。今年度の活動方針について、同協議会の松橋久美子会長は「魅力ある活動参加への呼びかけや情報発信を強化し、部員の維持・増加につなげたい。女性のパワーで地域や自分自身が明るく元気になる活動を推進する」と抱負を語った。

来賓として出席したＪＡ青森中央会の乙部輝雄会長は「国消国産の理念のもと、消費者への理解醸成や食農教育などの地域に根ざした活動の重要性が増している。組織の結束を強め、活動がさらに発展することを期待する」と祝辞を述べた。

同協議会は今後、承認された計画に基づき、県農協青年部協議会や地域社会と連携した食農教育活動や組織基盤の強化を重点的に展開していく方針だ。

▲あいさつをする松橋会長

本紙新任通信員研修　記事の書き方や心構えを学ぶ

ＪＡ青森中央会は４月28日、県農協会館で「令和８年度日本農業新聞新任通信員研修会」を開催した。県内ＪＡ新任通信員など11人が参加し、本年度の編集方針の確認や、記事の執筆方法、取材の心構えなどを学んだ。

講師に日本農業新聞東北支所の山口圭一次長を招き研修。架空の直売所イベントのチラシを教材として使用し、取材の要点や記事の構成方法を実践的に学んだ。講師からは、記事の質を高めるための事前準備の重要性が強調され、参加者は熱心に耳を傾けた。参加した通信員は「取材に向けた準備の重要性や心構えを理解できた。学んだことを今後の記事作成に活かしたい」と意欲を見せた。

▲カメラの使い方を学ぶ通信員（左）

青森県農協生活指導員連絡協議会が通常総会を開催

県農協生活指導員連絡協議会は５月15日、県農協会館で通常総会を開催した。同協議会役員や会員ら17人が出席した。全４議案が審議され、全て承認した。

役員改選も行われ、会長に三橋美幸さん（ＪＡつがる弘前）、副会長に佐藤愛弓さん（ＪＡおいらせ）を選任した。

2026年度は、和菓子作りや水引アクセサリー作りを行う予定。また、組合員や地域住民の暮らしの向上を図るため、県内視察研修も行い知見を深める。

▲あいさつする三橋会長（右）

ＪＡ青森中央会×酪農学園大学　人材育成など包括連携協定

ＪＡ青森中央会は５月20日、酪農学園大学（北海道江別市）と包括連携協定を結んだ。担い手不足をはじめとする地域農業の課題解決、県内の農業高校と連携した人材育成、鳥獣害対策などで協力する。

同日に同大学で締結式が開かれ、乙部輝雄会長と岩野英知学長が協定書に署名した。

両者は、2021年度から共同研究や新規就農者の

▲協定書に署名したＪＡ青森中央会の乙部会長（左）と酪農学園大の岩野学長（右）

支援体制の構築などで交流してきた。協定締結を機に農学、畜産学、獣医学分野での連携を深め、地域農業の維持・発展につなげる。
　乙部会長は、「豪雪や熊被害などで農業者の営農意欲の低下が懸念される。それぞれの強みを生かし協力することが重要だ。締結を新たなスタートにしたい」と意気込んだ。

ＪＡ福島中央会から豪雪被害見舞金贈呈

　今冬の豪雪被害に見舞われた青森県の農業復旧に役立ててもらおうと、ＪＡ福島中央会の原喜代志会長は５月21日、県農協会館を訪れ、見舞金をＪＡ青森中央会の乙部輝雄会長に贈呈した。
　原会長は、「今回の豪雪にあたり、被災された方々に心よりお見舞い申しあげる」と話し、乙部会長に目録を手渡した。
　受け取った乙部会長は、「リンゴの枝折れや幹折れ、パイプハウス倒壊などの被害が県内各地で数多く確認されている。いただいた見舞金は、各ＪＡを通じて被災された農家組合員の再建のために、大切に使わせていただく」と謝意を述べた。
　青森県によると、今冬の雪による農業被害額は202億8,000万円に上る。このうち、リンゴ枝折れなどの農作物被害が約196億2,590万円、農業関係施設被害が約５億789万円、畜産関係被害が約１億4,500万円などとなっている。

▲乙部会長（左）に見舞金を贈呈する原会長（右）

青森県農林水産委員との意見交換会

　青森県農協農政対策委員会とＪＡ青森中央会は５月25日、青森県庁で青森県農林水産委員との意見交換会を行った。ＪＡ側から青森県農協農政対策委員会の乙部輝雄委員長や、県内ＪＡの組合長ら21人が参加。青森県農林水産委員側は、工藤兼光委員長ら９人が出席した。
　意見交換会で乙部委員長は、令和８年度食料・農業・地域政策の推進について要請。①中東情勢を含む物価高騰・生産資材の供給不安定化等への万全な対応、②「食料品の消費税率ゼロ」にかかる農業現場への十分な配慮等の措置、③多様な農業者・担い手の確保と生産性向上、農地の維持・適正利用の推進、④災害等に強い農業づくり対策などを求めた。

▲工藤委員長（右）に要請書を手渡す乙部委員長（左）

　要請書を受け取った工藤委員長は「青森県の農業が『稼ぐ農業』となるよう力を合わせていきたい」と述べた。
　この他、生産資材の供給不足への支援や野生鳥獣害対策、米の需給と適正価格について意見を交わした。

行事（６／10～７／10）

６月

10日	監督者研修会【第１回】（県農協会館）
11日	営農指導員資格認証指定研修会【防除】（県農協会館）
12日	令和８年度ＪＡ女性大会・夏期研修会（県農協会館）
15日	国スポ・障スポ企業協賛に係る感謝状贈呈式（青森県庁）
16日	県参協定例会（県農協会館）
17日	県ＪＡ協議会通常総会・研修会（アップルパレス青森）
18日	ファシリテーションスキル研修会（県農協会館）
22日	通常総会、県農協農政対策本部委員会（県農協会館）
23日	営農指導員資格認証指定研修会【営農企画】（アスパム）
25日	ステップアップ研修会（県農協会館）
26日	しゃかしゃかおむすび＆みそ玉教室（相馬こども園）
30日	令和８年度第１回きらきらサークル研修会（県農協会館）

７月

１日	県参協定例会（県農協会館）
２日	ＪＡ総務管理担当常勤理事会議（アップルパレス青森）
３日	リーダーシップ研修会（県農協会館）
６日	組織再編検討会議　専門部会【共済・県南】（ＪＡ八戸営農経済本部）
８日	組織再編検討会議　専門部会【共済・津軽】（ＪＡつがるにしきた本店）
９日	定例理事会（県農協会館）
９日	令和８年度農業所得向上祈願（三本木稲荷神社）
10日	総務・管理担当部課長会議（県農協会館、ＷＥＢ）

ＪＡバンク青森　2025年度県域表彰

ＪＡバンク青森では2025年度県域表彰の表彰式を優績ＪＡは2026年５月11日にＪＡバンク青森運営協議会、優績店舗は各ＪＡにて行った。

2025年度の県域表彰は、農業融資、ＪＡバンクローンの伸長、顧客基盤強化を目指し評価対象とした。

ＪＡバンク青森の県域表彰は、県域戦略の実践を踏まえた見直しを行っており、2026年度は特別対策の実施に伴い、2025年度の評価項目に個人貯金残高伸び率に加え、配点割合をシンプルな制度設計にするため変更を行った。

受賞ＪＡおよび受賞店舗は右記のとおり。

◀優績ＪＡ表彰（右から）
ＪＡつがる弘前　天内組合長
ＪＡ津軽みらい　奈良組合長
ＪＡおいらせ　中屋敷組合長

◀ＪＡおいらせの優績店舗表彰

【優績ＪＡ表彰】

最優秀賞	ＪＡ津軽みらい
優秀賞	ＪＡつがる弘前
奨励賞	ＪＡおいらせ

【優績店舗表彰】

最優秀賞	ＪＡつがる弘前	弘前東支店
優秀賞	ＪＡおいらせ	本店
奨励賞	ＪＡ十和田おいらせ	本店
敢闘賞	ＪＡつがる弘前	岩木支店
同	ＪＡつがる弘前	弘前中央支店
同	ＪＡゆうき青森	本店
同	ＪＡ八戸	下長支店
同	ＪＡ津軽みらい	石川支店
同	ＪＡつがる弘前	弘前西支店
同	ＪＡつがる弘前	弘前北支店

◀ＪＡつがる弘前の優績店舗表彰

◀ＪＡ十和田おいらせの優績店舗表彰

行事（６／10～７／10）

農林中央金庫

６月

10日	青森県ＪＡ信用担当部課長会議（県農協会館）
11日	信用事業新任管理者研修（＊）
16日	ＪＡバンク青森運営協議会専門委員会（県農協会館）

７月

２日	第１回証券外務員・内管試験（県農協会館）
７日	信用事業入門研修（＊）

農協電算センター

６月

11日	窓口端末機操作研修（貸出金）（県農協会館）
18日	窓口端末機操作研修（情報系）（県農協会館）
22日	定時株主総会（県農協会館）
24日	窓口端末機操作研修（情報系）（農協会館）

７月

２、９日	窓口端末機操作研修（情報系）（県農協会館）

（＊）はウェブ会議

だいこんの情報交換会の開催

ＪＡ全農あおもりは５月８日、三沢市のＪＡおいらせ本店会議室でだいこんの情報交換会を開いた。令和８年産の出荷計画を22,245㌧（前年実績比98%）、に設定したことを報告し、計画達成に向けた販売対策について協議した。

令和８年産の販売方針として、近年の夏場の天候不順による収量減や生産コストの増嵩など、生産現場を取り巻く厳しい環境を踏まえ、再生産価格の実現に向け、的確な産地情報の提供および予約相対取引の実施を販売重点事項とした。あわせて物流面では、物流体制の構築を進めるとともに、品質管理や消費宣伝・普及活動の充実を図りながら推進する。

生育経過について、消雪が早く、播種作業は前進傾向で推移した。４月が好天となったことから、生育はおおむね平年並みとなっている。青森県産だいこんの出荷は、５月下旬から６月にかけて本格化する見込みとなっている。

▲販売対策について協議する出席者

ＪＡやすらぎホール鰺ヶ沢で人形供養祭を開催

ＪＡ全農あおもりは５月10日、鰺ヶ沢町のＪＡやすらぎホール鰺ヶ沢で人形供養祭を開いた。140人の来場者があり、約400体の人形が同ホールに集まった。

組合員と地域住民に対する感謝と、ホールのリニューアルに伴う施設紹介を目的に企画したもの。

集まった人形は、深浦町の副住職が読経し供養した。

供養読経後は、津軽民謡歌手のかすみさんによる唄などの催しを開いた。

人形供養祭は2022年と24年にやすらぎホール黒石で２度、やすらぎホール鰺ヶ沢では23年３月に続き、今回で２度目の開催。全農あおもりは今後もホールの認知促進、ＪＡ葬祭事業の拡大に努めていく。

▲副住職による供養

令和８年度農産物検査員育成研修の開講

青森県ＪＡ農産物検査協議会は５月12日、青森市の県農協会館で「令和８年度農産物検査員育成研修」を開講し、県内５ＪＡから18人が出席した。

研修では関係法令や分析・鑑定方法などの基礎課程を６月下旬までに10日間学び、各作物の収穫期には現場実習課程を７日間実施する。同日、農産物検査制度にかかわる基本法令（農産物検査法・食品表示法・米トレーサビリティ法など）の講義が行われた。

▲開講式に参加する受講者

開講式のあいさつでは、相場仁会長（ＪＡ全農あおもり米穀畜産部長）から、「農産物検査は公正で円滑な農産物の流通に重要な業務。この検査が産地の顔であり、評価・信用であることを改めて認識しながら研修に臨んで欲しい」と呼び掛けた。

また、東北農政局青森県拠点の草薙浩之総括農政業務管理官は、「農産物検査の目的を常に念頭に置き研修に励んで欲しい。いち早く現場で活躍されることを期待する」と研修生を激励した。同研修は令和９年１月末まで実施し、２月に修了式を行う予定。

令和７年産春掘りながいも販売対策会議の開催

ＪＡ全農あおもりは５月15日、五戸町のＪＡ八戸会議室で「令和７年産春掘りながいも販売対策会議」を開いた。県内各ＪＡや全国の市場関係者らが出席し、入庫状況と販売環境を踏まえた今後の対策について協議した。

会議では、各ＪＡの春掘り入庫状況を踏まえ、令和７年産全体の出荷数量を157万ケース／10㌔（令和６年実績比98%）と見込み、４月以降11月までの出荷見込み数量を109万ケースに設定した。

また、有利販売実現のため、①最需要期となる６月～８月の売り場確保と販促活動の強化、②下位等級品の特別注文対応やパック品の販売拡大―などの具体策に取り組んでいくことを決めた。

▲あいさつをする平山やさい部長

全農杯卓球大会青森県予選会の開催

ＪＡ全農が特別協賛する「全農杯令和８年度年度全日本卓球選手権大会（ホープス・カブ・バンビの部）」の青森県予選会が５月16日、黒石市のスポカルイン黒石で開かれた。ＪＡ全農あおもりは大会に協賛し、優勝、準優勝、３位の選手に全農あおもり笹森俊充県本部長より、県産農畜産物を贈呈した。優勝者には倉石牛サーロインステーキ、準優勝には精米（青天の霹靂）、３位には飲むヨーグルトセットを贈呈した。

また参加賞として、出場選手全員の212名に「ニッポンエールグミ（世界一りんご）」を配布した。

全国大会は、７月24日から26日に神戸市で行われる。

▲優勝選手に贈呈する笹森県本部長

行事（６／10～７／10）

６月

11日	ＪＡ肥料農薬新任担当研修会（県農協会館）
12日	系統段ボール資材事業推進会議（新町キューブ）
18日	高圧ガス第二種販売講習会（県農協会館）
23日	ＪＡ－ＳＳイベント企画・ＰＯＰ講習会（青森県社会教育センター）

７月

８日	ＬＰガス器具取扱研修会（県農協会館）
９日	運営委員会（県農協会館）

「春の安全・安心まちづくり推進大会」・「子ども110番の車」出動式への参加

ＪＡ共済連青森は４月17日、青森市のアスパムにて青森県警察本部が主催する「春の安全・安心まちづくり推進大会」及び「子ども110番の車出動式」に参加した。

「春の安全・安心まちづくり推進大会」は「春の安全・安心まちづくり旬間（４/21～４/30)」を広く県民に周知することを目的に開催されたもので、同大会に続けて「子ども110番の車出動式」が行われた。

「子ども110番の車」は、こどもが被害者となる事件・事故や不審者・不審車両を発見した際に、被害者等の一時的な保護や警察への通報を行うほか、日常の事業活動を通じて防犯の視点を持ってこどもを見守る活動であり、ＪＡ共済連青森も協力団体として参画している。

出動式には協力団体11団体が集まり、安全・安心のまちづくりへの貢献をアピールした。

▲11の協力団体が活動をアピールした

生徒向け自転車交通安全教室の開催

ＪＡ共済連青森は、青森県警察本部と連携し、４月23日外ヶ浜町立蟹田中学校、５月１日弘前市立南中学校、５月25日中泊町立中里中学校にて、「生徒向け自転車交通安全教室」を開催した。

この教室は、プロのスタントマンが危険な自転車走行により発生する交通事故を実演し、事故の衝撃や恐ろしさを疑似体感することで、ルールやマナー違反が交通事故につながる危険性について考える機会を提供するとともに、自転車走行における交通ルールの理解と実践を呼びかけている。

参加した生徒たちは、衝突の瞬間に驚きの声をあげるなど、事故の衝撃を肌で感じていた。

▲トラックによる内輪差事故の実演（外ヶ浜町立蟹田中学校）

生徒からは、「事故が起きた際の対応と流れを確認できてよかった。事故が起きたとき110番が必要なことは分かっていたが、パニックで頭が真っ白になり、普段どおり行動できないことが分かった」「実際にスタントを見ると迫力がすごく、事故の恐ろしさを改めて感じた」「車のスピードが遅くても衝突すれば、大怪我につながることが分かった」などの声が聞かれ、事故の恐ろしさや交通ルールを守ることの大切さを実感していた。

▲自転車と自動車の交通事故を迫力のスタントで実演（弘前市立南中学校）

▲スタントマン指導のもと実演に臨む中学生（中泊町立中里中学校）

Ｊ－ＳＭＩＬＥ研修会「窓口の基本編」の開催

ＪＡ共済連青森は５月13日、県農協会館にてＪ－ＳＭＩＬＥ研修会「窓口の基本編」を開催した。

研修会は、新任のスマイルサポーター（共済窓口担当者）を対象に窓口としての接遇・推進マインドの醸成と習得を目的に開催した。

研修会では、講師より①スマイルサポーターが担っている様々な業務の１日の流れ、②スマイルサポーターに期待される応対、③お客様との距離を縮めるための方法について説明があり、参加者は現場での実践に向けて意欲的に研修を受講していた。

▲スマイルサポーター業務をイメージする参加者

共済担当部課長会議の開催

ＪＡ共済連青森は５月21日、県農協会館にて共済担当部課長会議を開催した。

会議は各ＪＡの共済担当部課長を対象とし、令和７年度の普及推進結果を踏まえた課題の共有と、令和８年度のＪＡ普及推進目標達成に向けた取組み内容の協議・共有を目的に行われた。

開会に際し葛西本部長が挨拶し、令和７年度は出席者の尽力により７年ぶりに全ＪＡが目標を達成したことについて感謝を述べた。また、令和８年度もこの勢いを継続しながら全ＪＡが推進総合目標を達成できるよう各種施策の実践を県本部職員も精一杯支援し一緒に取組んでいきたいと決意を新たにした。

▲開会にあたり挨拶する葛西本部長

ＪＡ共済きずなの青い森プロジェクトの開催

ＪＡ共済連青森は５月22日、平内町にてＪＡ共済ビジネスサポート株式会社と森林組合あおもりの協力のもと「ＪＡ共済きずなの青い森プロジェクト」を開催し、県内ＪＡ職員13名が参加した。

本プロジェクトは、環境保全活動をベースに森を自然と触れ合う教育の場として活用し、様々な体験を通じて、森が地域や農業にもたらす恩恵や役割への理解と、参加者同士のきずなを深めることを目的に平成29年度から開催している。

当日は、平内町弁慶内地区の「ＪＡ共済きずなの青い森」にて除間伐等の見学、樹種観察、植樹体験を行い、森林の役割について学んだ。また、強風の影響により場所を移して実施した県産品を使ったＢＢＱやクイズ形式の「食育ビンゴ」を通じて、楽しみながら地元食材や食への理解を深めた。

▲今回参加したＪＡ職員の皆さん

▲森林プログラムでヒバの植樹

▲県産の野菜・精肉・ホタテを使ったＢＢＱを楽しんだ

さらに、森林学習展示館においてヒバ材を使用した組子制作を体験したほか、平内消防署では煙体験や消火体験、防火講話を通じて、地域で安全に暮らすための防災意識を高めた。

参加者は、森林を通じた地域と暮らしへのつながりを体験的に学び、終始和やかな雰囲気の中で交流を深めていた。

▲ヒバの香りを感じながら、組子制作

行事（６／10～７／10）

６月

11日	共済事務処理担当者研修会【第１回】（オンライン）
16日	ＬＡステップアップ研修（推進マインドデザインコース）（県農協会館）
18日	共済事務処理担当者研修会【第２回】（オンライン）
23日	Ｊ－ＷＡＹＳ習得編（県農協会館）
25日	ＪＡ共済コンプライアンス点検研修会（オンライン）

７月

３日	自賠責共済経費にかかるＪＡデータ報告研修会（県農協会館）
７日	共済事業担当常勤理事会議（アートホテル青森）
９日	運営委員会（県農協会館）
10日	支店管理者交流集会（ホテル青森）

あおもり通信

連絡先
農林水産省東北農政局
青森県拠点地方参事官室
TEL：017-775-2151

― 農林水産省からＪＡ関係者へ情報発信 ―

青森県の令和６年農業産出額及び生産農業所得

― 農業産出額は4,119億円で過去最高、21年連続東北１位、全国５位（前年７位） ―

令和６年青森県の農業産出額は、前年に比べて653億円（18.8%）増加し、4,119億円で過去最高となりました。東北では21年続けて１位となり、全国順位も５位となっています。

青森県の農業産出額上位10品目をみると、りんご、にんにく、ごぼうは全国１位、やまのいもは２位、ブロイラーは４位となっています。

部門別の構成割合をみると、青森県は全国的に見ても主要部門でバランスが取れた構成となっています。

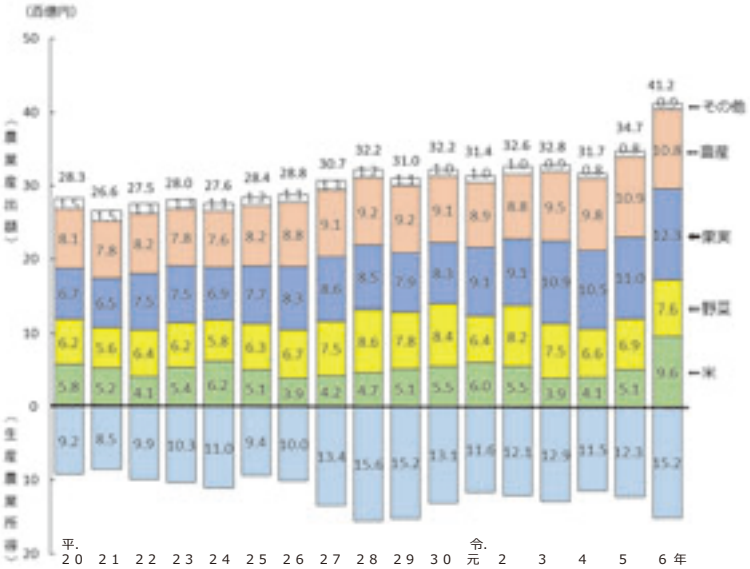
なお、生産農業所得は1,515億円となり、前年に比べ289億円（23.6%）増加しました。

表　農業産出額上位10品目（青森）

順位	品目	産出額	構成割合	全国順位	
		億円	%	位	
	農業産出額計	4,119	100.0	5	(7)
1	りんご	1,171	28.4	1	(1)
2	米	955	23.2	10	(11)
3	豚	313	7.6	9	(8)
4	鶏卵	251	6.1	9	(13)
5	ブロイラー	223	5.4	4	(4)
6	肉用牛	171	4.2	13	(13)
7	にんにく	146	3.5	1	(1)
8	やまのいも	130	3.2	2	(2)
9	ごぼう	119	2.9	1	(1)
10	生乳	90	2.2	15	(16)

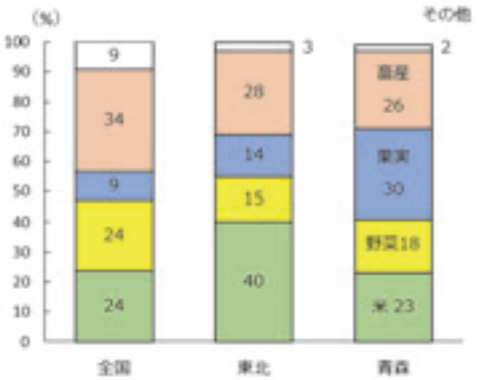
資料：農林水産省『生産農業所得統計』
注１：順位付けは、秘密保護上統計数値を公表していない品目を除いたものであり、原数値（100万円）により判定しました。
注２：（　）は前年の全国順位です。

図１　農業産出額及び生産農業所得の推移（青森）



資料：農林水産省『生産農業所得統計』

図２　農業産出額の部門別構成割合



資料：農林水産省『生産農業所得統計』
注１：全国は、都道府県別農業産出額の合計値の構成割合です。
注２：表示単位未満を四捨五入したため、合計値と内訳の計が一致しない場合があります。

詳細については
東北農政局ホームページをご覧ください。
https://www.maff.go.jp/tohoku/stinfo/kekka/

組織農政通信

令和８年度食料・農業・地域政策推進全国大会

ガンバロー三唱をする乙部委員長（右）ら

ＪＡ全中と全国農業者農政運動組織連盟は５月13日、東京都千代田区のベルサール半蔵門で、ＪＡグループの意思結集と反映を図ることを目的に「食料・農業・地域政策推進全国大会」を開いた。オンラインを併用し、全国からＪＡや農政組織の代表者ら4,000人超が参加した。ＪＡグループ青森からは乙部輝雄青森県農協農政対策委員長（ＪＡ青森中央会会長）をはじめ、ＪＡ組合長ら13人が参加した。

主催者を代表してＪＡ全中の神農佳人会長が挨拶するとともに、代表要請を行った。要請では、農政における最重要課題として農業構造転換の更なる推進と令和９年度以降の水田政策の見直しの具体化に加え、「食料品消費税率ゼロ」にかかる農業現場への十分な配慮や、２月末以降の中東情勢の悪化による物価高騰生産資材の供給不安定化等への万全な対応について措置を求めた。

要請を受け、自由民主党の森山裕食料安全保障強化本部長は特に中東情勢対策と消費税ゼロに関しては大きな課題であり、しっかり対応していく旨述べた。

意見表明では、福井県農業協同組合中央会の宮田幸一会長が令和９年の水田政策の見直し、米の需給の安定と適正な米価の実現などに関して述べた。それを受けて宮下一郎総合農林政策調査会長は、水田政策の見直しについては、農業構造転換推進委員会中心に詰めの議論を行っていること、米の需給の安定と適正な米価の実現についてはしっかりと生産と需要への結びつきが行われるよう対策を行うことを述べた。

また、全国農協青年組織協議会の坂本裕之副会長は、米のセーフティーネット対策の拡充、中山間地域等直接支払の拡充などについて述べた。それを受けて宮下会長は、現行の米のセーフティーネット対策ではコスト上昇に対応しきれないことに触れ、抜本的に構造を変える取組みとして、食料システム法によって持続可能な農業への対案を進める旨述べた。また、中山間地域等直接支払の拡充については、農業構造転換推進委員会のとりまとめの最終段階であることを明らかにした。

最後に、全国農協青年組織協議会の星敬介副会長が音頭をとり、念願だった食料システム法によるコスト指標が示されたことに触れつつ、参加者全員でガンバロー三唱を行った。

本会としては、食料安全保障の強化、また、持続可能な農業の実現に向け、農政運動や学習活動をすすめていく。

（中央会　農業対策部）

経営の窓口

◆令和７年度決算速報からみる県内３月決算ＪＡの状況
～不安定な世界情勢や円安の継続も前年度超えの事業利益確保～

１．はじめに

2025年は、継続する円安のほか、日銀の追加利上げもあり本格的な「金利のある世界」へと転換した。長期化するロシアによるウクライナ侵攻に加え、混沌とする中東問題が世界情勢の不安定化に一層の拍車をかけ、世界的なサプライチェーンの分断を招き、本県経済にも影響を及ぼした。本県農産物は、夏場の気候は猛暑に見舞われるも比較的順調に推移した一方、冬季の寒波および記録的な大雪により、２年連続のりんごの枝折れ被害等が発生し、今後のＪＡ経営への影響や、農家組合員の所得への影響も懸念される。

今回は、令和７年度３月決算ＪＡの決算速報をもとに県内ＪＡの状況を紹介したい。

２．令和７年度決算速報（３月決算ＪＡ）の概要

３月決算ＪＡの状況としては、事業総利益（３月決算ＪＡ計）が前年度14,078百万円から14,476百万円、前年対比＋398百万円（前年対比102.8%）と増加した。信用事業総利益は金利上昇の恩恵もあり3,018百万円（同112.3%）と大きく増加した一方、購買事業総利益は物価高騰が一服し、調達コストが一定程度落ち着いたことを背景に、3,738百万円（同99.0%）と前年からほぼ横ばいなった。

販売事業総利益は、前年から続く米の需要逼迫と価格高騰を背景に販売高が大きく上昇し、3,265百万円（同109.7%）となった。また、その他事業総利益（加工・利用・保管など）は1,793百万円（同90.5%）となった。

事業総利益から事業管理費を差引いた事業利益は、７ＪＡとも黒字を確保し、前年度655百万円から1,170百万円、前年対比＋515百万円（同178.6%）と昨年に続き前年を大きく上回った。

さらに、当期剰余金は、３月決算ＪＡ合計で757百万円となり、７ＪＡすべてで剰余金を確保した。

なお、詳細は下表のとおり。

令和７年度決算速報（３月決算ＪＡ）

（単位：百万円）

	令和７年度	令和６年度	差額	前年対比
事業総利益（A）	14,476	14,078	398	102.8%
うち信用	3,018	2,687	331	112.3%
うち共済	2,946	2,951	△ 5	99.8%
うち購買	3,738	3,777	△ 39	99.0%
うち販売	3,265	2,976	289	109.7%
うちその他	1,793	1,981	△ 188	90.5%
うち指導	△ 284	△ 294	10	96.6%

	令和７年度	令和６年度	差額	前年対比
事業管理費（B）	13,306	13,423	△ 117	99.1%
うち人件費	8,680	8,851	△ 171	98.1%
事業利益（A－B）	1,170	655	515	178.6%
当期剰余金	757	264	493	－

３．さいごに

今年２月に勃発したアメリカとイランの対立は、原油価格の上昇など様々なコストを上昇させる要因となっており、長期化となればＪＡ経営にも大きな打撃を与えることが懸念される。今後も当面の間は正組合員の減少が継続し、職員の年齢構成の変化や採用活動の激化による労働力不足等により、ＪＡの経営収支は厳しくなることが想定される。総合事業経営の前提となる収支確保のため、毎年実施している将来の見通しを踏まえた収支シミュレーション策定の重要性はより高まっている。

本会としても、持続可能なＪＡ経営基盤の確立・強化、早期警戒制度を踏まえた経営の健全性確保、不断の自己改革への取組み、事業・施設再編等の取組みを引き続き支援していきたい。

（中央会　経営対策部）

日本原燃職員　援農活動

ＪＡ相馬村では４月22日に、日本原燃の職員による援農活動を実施した。

青森市内から４名、六ヶ所方面から３名の計７名の職員が農作業の応援に駆けつけた。

同社の職員は毎年、相馬管内のリンゴ園地を訪れて収穫のお手伝いを行うなど、地域との温かい交流を続けていたが、昨年はクマの出没が相次いだことから、参加者の安全面を最優先に考慮して当管内での活動が見送られていた。

今年は、桐の木沢地区の農家さんのもとでリンゴ栽培に大切な剪定した枝の片付けを行なった。参加した職員はクマ鈴や撃退スプレーをしっかり常備し、周囲の安全に目を配りながら、真剣な表情で作業に励んでいた。

作業を終えた職員は、「昨年は来られなくて残念だったが、今年は秋の収穫の時期にもまた、お手伝いに来られたら嬉しい」と今後の継続的な活動に期待を込め、笑顔がこぼれていた。

剪定した枝を拾い、運搬車の荷台へ集める作業

春の野菜苗即売会　今年も大好評！

ＪＡ相馬村特産物直売センター『林檎の森』では、４月29日から５月10日までの12日間にわたり、ＪＡ湯口支所前特設会場において、毎年恒例の「花と緑の市」が盛大に開催された。

初日は絶好の行楽日和に恵まれ、会場には開店前から長い行列ができるほど、多くのお客様が詰めかけた。会場内は色鮮やかな花や青々とした野菜苗で埋め尽くされ、お目当ての品を買い求める多くの人で終始活気に満ち溢れていた。

10年以上通い続けているという常連のお客様は、「ここの苗は本当に丈夫で、毎年見事に育ってくれる。だから必ず初日に買いに来ると決めているんだ」と笑顔で話し、カゴいっぱいに好みの苗を選んでいた。

また、会場のあちこちで再会を喜ぶ声が響く中、「いつもの職員が見当たらないけれど、今年はいないの？毎年ここで近況を話すのが楽しみで来ているんだけど……」と、顔なじみのスタッフを熱心に探しているお客様の姿も見受けられた。

会場は２日間を通じて人と人との温かい交流の場として、このイベントを心待ちにされている方々で大いに賑わった。

お目当ての苗を求めて、たくさんの来客者が訪れた

輝き

農林中央金庫　青森支店
営業班
山﨑（やまざき）　飛鳥（あすか）　さん

●プロフィール
2024年４月から勤務　山形県天童市出身　24歳

働くきっかけは？
小さい頃から農家である祖父母の手伝いをしたり、大学時代にはりんご農園でアルバイトをしたりと農業は身近なものでした。現場の課題を目の当たりにし、少しでも農業に貢献できる仕事に就きたいと考えていたところ、金庫と出会いました。

業務内容を教えて下さい。
貸付実行に伴う事務処理や契約書の管理、期日管理などを行っています。昨年４月からはプロパー資金の総括として各種報告を行うほか、手順の共有化や業務の効率化に取り組んでいます。

働いた感想は？
プロパー資金の業務だけでなく受託金融機関としての業務もあり、委託元によって規定やフローが異なるため、慣れるまで苦戦しました。様々な業務の知識が身に付くにつれてお客様のご質問に的確かつわかりやすく答えることができるようになり、「ありがとう」と言っていただくことも増え、大変励みになっています。

仕事をする上で、日頃心がけていることは？
お客様目線に立つことを一番に心がけています。電話でわかりやすい説明をするのはもちろん、郵送した用紙に疑問点なくご記入いただけるよう、記入例を添付するなどの工夫をしています。

特技・趣味は？
趣味はサッカーと推し活です。サッカーは最近できていませんが、W杯が開幕するので楽しみにしています。推し活は、＝ＬＯＶＥというアイドルグループを応援しており、６月には国立競技場でのライブに参戦します！

あなたが自慢できることは？
眠りが深く、10時間以上一度も目覚めず眠り続けられることです。おかげで休日はぐっすり眠れますが、平日の朝は起きるのが大変です。

将来の夢は？
国内旅行が好きなので、いつか全都道府県コンプリートしたいです。

部会のチカラ

アスパラ産地の鰺ヶ沢町 安定生産へ猛暑対策

出荷規格を部会員と共有する長谷川部会長（右から４番目）

ＪＡつがるにしきたつがる白神やさい・果実部会は、生産者76人で構成され、このうちアスパラ・そさい班は47人で、うち41人がアスパラガスを生産している。作付面積は35㌶（ヘクタール）におよび、県内シェアの半数以上を占める一大産地となっている。甘みが強く、太くて高品質なアスパラガスで知られている。

2025年度から部会長を務める長谷川誠さんは、同班の班長も兼務するアスパラガス生産者の一人だ。元々は役場職員として勤務していたが、５年前に就農し、現在は地域の中核的な担い手として産地をけん引している。

部会では品質向上を目的に、定期的な勉強会や視察研修を行い、栽培技術の向上に取組んでいる。一方、近年は夏の猛暑による水不足が課題となり、かん水チューブの導入など水管理対策を進め、安定生産の維持を図っている。

長谷川さんは、おすすめの食べ方として『鉄板にアルミホイルを敷いて焼き、塩コショウで味わう方法』を挙げ、「茹でるよりも加熱した方がよりおいしい」と話す。また、「新規就農者や農家へ転身する若い人が増えている。そうした人たちが生活できる産地を目指し、鰺ヶ沢町のアスパラガスの知名度をさらに高めたい」と意気込んでいる。

新風

ＪＡおいらせ

自衛官から生産者へ

親の畑を受け継ぐ

長芋の支柱刺しを行う馬場さん

青森県三沢市に住む馬場修さんは就農２年目の新規就農者で、主にゴボウ、ナガイモを生産している。また、ＪＡおいらせの委託事業として、ナガイモの畑作りや収穫作業も担っている。

農家である両親の影響もあり、中学生の頃から夢は農家だったという馬場さんだが、高校卒業後は農家ではなく、自衛官として福岡の基地に所属し、36歳まで全国を転々としていた。そんな中、母が体調を崩したと聞き、そばで両親の手伝いをしようと決意。三沢基地へ異動し、自衛官として活動しながら、両親の手伝いをしていたが、夜勤もあり両立が難しくなったため、自衛官を辞め、農家として生きていこうと覚悟を決め、現在は両親と妻の４人で農業を営んでいる。

「両親がいつまでも農家を続けられるわけではない」と語り、両親からの学びも活かしつつ、新しい機械の導入や畑作りの方法などを自分たちで工夫している。

「両親が今まで経営してきた大切な土地を、やりがいを持ちながらしっかり引き継いでいきたい」と意気込んでいる。

後編記集

６月に入り、暑くなってきましたね。昨年の暑さを踏まえて気象庁では最高気温が40℃以上の日を「酷暑日」と定義しましたが、今夏は暑くなりすぎて農作物に影響が出ないことを願うばかりです。

さて、５月某日、青森市のさくら野百貨店で開催された「大京都展」に行ってみました。たくさんのお客さんが入っており、特にフードコーナーが盛り上がっていました。そこで東山茶寮の「宇治抹茶粉かけソフト」を食べました。普段から抹茶が好きで市販の抹茶アイスは食べるのですが、宇治抹茶のソフトクリームは苦みが濃くて少し驚きました。

ソフトクリーム以外にも、わらびもちや生八つ橋など、抹茶を使った食べ物が多くありましたので、抹茶好きの方はまた開催される機会がありましたら、足を運んでみてはいかがでしょうか。

Have a nice June（克）

ホームページアドレス

■ＪＡ青森中央会　https://www.ja-aomori.or.jp/chuoukai/
イベントの様子、歳時記、産直・ＪＡ情報などをご覧いただけます。

■ＪＡバンク青森　https://aomori.jabank.org
商品・サービスのご案内のほか、マネーシミュレーションや全国のＪＡバンクへのリンク等をご覧いただけます。

■ＪＡ全農あおもり　https://www.zennoh.or.jp/am/
生産量日本一のりんご・にんにく・ごぼうをはじめとした農畜産物情報や活動状況、中古農機情報を紹介しております。

■ＪＡ共済連青森　https://www.jakyosai-aomori.jp
ＪＡ共済のご案内のほか、地域貢献活動の取組みを紹介しております。

日本農業新聞 電子版

営農にますます役立つアプリに

「日本農業新聞ニュースアプリ」がリニューアル! 新機能を追加し、操作性も向上しました。
好みに合わせてカスタマイズでき、情報収集がより便利になります。

新機能1

病害虫診断

スマートフォンで撮った写真から、農作物の病気や害虫をAIで判定することができます。
対応品目は、トマト、ブドウ、イチゴ、キュウリ、タマネギ、ジャガイモ、ナス、桃、ピーマン、菊、大豆、カボチャの12品目です。

新機能2

気象情報

1週間の天気予報に加え、1キロ四方単位の詳細な気温、降水量、日照時間のデータ(過去7日間+今後7日間)を見ることができます。また、栽培品目の積算温度も計算できます。

新機能3

Myカテゴリ

関心のある用語や、栽培品目、市町村名、JA名などを登録すると自分だけのカテゴリを作成できます。
カテゴリには自動で記事が分類され、読みたい記事を手軽に探せます。

※本サービスは人工知能（AI）技術および外部データベース等を活用した参考情報の提供であり、診断の正確性・有効性について当社は一切の責任を負いかねます。ご自身の責任において判断し、ご利用ください。

アプリダウンロードはこちら

右記QRコードを読み込み、日本農業新聞公式ウェブサイトからアプリダウンロードにお進みいただけます。

アプリの利用について

- アプリ内で全ての記事・機能を利用するには、電子版有料会員登録（月額2,403円）が必要です。
- 電子版有料会員の方は、アプリを利用する前にブラウザ版でログインして会員認証を受けてください。会員認証がないと、アプリ内の一部の機能が利用できません。

※過去一度でもブラウザ版でログインしたことがある方は認証済みです。

※アプリのダウンロードには「Apple ID」または「Googleアカウント」が必要となります。 ※App StoreはApple Inc.のサービスマークです。 ※Google PlayはGoogle LLCの登録商標です。

紹介動画はこちら

お問い合わせ

日本農業新聞 電子版事務局
dkanri@agrinews.co.jp

家の光

IE no HIKARI

「食と農」「暮らし」「協同」「家族」を柱に
「人生100年時代」の元気づくりを応援していきます!

読者に寄り添い
より身近で活用しやすく

お申し込みはお近くのJAへ

誌　名	定価（税込）※毎号統一価格
家の光 IE no HIKARI	900円

JAグループ 家の光協会　〒162−8448　東京都新宿区市谷船河原町11　TEL 03−3266−9039　https://www.ienohikari.net/